

# 秀峰 ICTで探究活動

## 文科省のDX推進校に

松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)は、文部科学省がデジタル分野などの人材育成を推進する「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」の本年度採択校に決定した。ICT(情報通信技術)を使った「デジタルものづくり」を柱に探究活動を進める計画で、手始めに課外活動として実践し教育効果などを検証する。

(鎌倉 希)

DXハイスクールは、本年度始まった事業。情報、数学などを重視したカリキュラムとともにICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校を対象に、1校1000万円を上限に高性能パソコンや3Dプリンターといった環境整備に必要な費用を支援する。中信地区では松本県ケ丘、塩

### デジタルものづくり中心



補助金の使い方を検討する同好会の生徒たち

尻志学館、松本工業、南安曇農業の各高校も採択された。

秀峰では、本年度発足したデジタルクリエイターズ同好会で活動を試し、教員向けの研修や生徒有志による生成AIを活用したものづくりも検討している。同好会はロボコン大会や、仮想空間でま

ちや建物を作る「教育版マインクラフト」を使った大会に参加するほか、プログラミング、映像編集など個々の興味に応じて取り組む。探究活動の一環として、補助金のうち500万円の使い方について生徒が案を練っている。

同好会の5年・青木羽矢(16)は「高性能の機材があれば、できることも広がる。デジタル系の技術や文化を後輩に継承できるようにしたい」と意気込む。デジタルものづくりを通してコミュニケーションやプログラミングなど幅広い力を身に付けることを狙い、将来的には全校の取り組みも見据える。担当教員の堀口翔平さん(30)は「枝葉末節をいかにようにも増やせる活動。生徒の発想を形にできる環境を整え、教育的意義を示せるようにしたい」と話している。